

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年3月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101359
法人名	社会福祉法人 野の花会
事業所名	グルッペ野の花
所在地	鹿児島県鹿児島市与次郎一丁目4番18号 (電話) 099-230-7777
自己評価作成日	令和3年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所はアルテンハイム鹿児島(複合型施設)2階に街中において生き生きと暮らせるグループホームとして平成28年2月開設しました。全室個室(トイレ付)、日中は明るく広いリビングスペースでもお過ごしいただけます。認知症で自立した生活が困難になったお客様に家庭的な環境の下で食事、入浴、排泄等の日常生活の支援、心身の機能訓練を行うことにより、お客様が安心と尊厳のある日常生活が継続できるよう生きる喜びを支えるケア、自立支援の介護に努めています。日課に散歩(屋上や1階庭園)、脳活性化リハビリを取り入れ、認知症予防や改善にも取り組んでいます。屋上にての桜島や錦江湾・鹿児島市内を眺めながらの茶話会を楽しんだり、サマーナイト花火大会や観月会を楽しみにされています。また、特養に歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士が常勤で勤務していることでケアについての相談や指導を受ける事ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は耐震構造の8階建て複合型施設の2階にあり、校区の自治会や通り会に加入し、職員が毎月1~2回ゴミ拾いをして地域貢献している。台風時の施設受け入れを可能にしている。
- ・コロナ禍で面会制限の為、一階でのガラス越し面会やパソコン画面でアバターロボットの遠隔操作を行い、面会できている。
- ・管理者や職員は、利用者の尊厳を大切に言葉遣いや礼儀を重んじ、家族との信頼関係を構築している。
- ・身体機能の低下、認知症の悪化防止を阻止するために個々に応じ、支援している。
- ・家庭的な雰囲気の中で利用者が穏やかに一日を過ごせるよう職員の特技を活かしたレクリエーションを提供したり、職員間の連携、共有して笑顔や趣味を引き出せる関わりをしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「福祉文化の創造（福祉に文化を）」を法人理念とし、お客様の生活全てを文化ととらえ、尊厳あるケアに努めています。理念はケア会議、職員会議、広報誌等で日々周知を図っている。	法人理念を重要事項説明書や広報誌に掲載している。ケア会議で活動報告し振り返りをしている。職員全員、理念の共有に努め、尊厳あるケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域行事への参加が難しく、近所の散歩やドライブなどで地域へ外出・交流している。又、地域貢献事業で月1～2回地域のゴミ拾い等を職員で実施している。	自治会や通り会に加入しているが、コロナ禍のため、地域行事は自粛している。地域貢献活動として職員が月1～2回、ゴミ拾いを実施したり、災害時に地域住民を施設へ受け入れ可能としている。近くの公園へ散歩に出かけて出会う人達と挨拶し交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人は毎年地域に向けての講演会や勉強会を定期的で開催している。事業所も実習生・ボランティアの受け入れや家族・地域へ認知症相談や支援の方法などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、お客様の状況や活動報告を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で参加人員を縮小し、職員へはケア会議で報告し、地域との交流やサービス向上に活かせるように努めている。	定期的に小規模多機能ホームと合同で民生委員参加の下、開催している。利用者の状況や行事の活動報告・感染症対策の取り組み等を報告し、欠席の委員には報告書を送付し、出された意見は、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市担当者とは問題点や情報等その都度窓口や電話で相談、報告を行っている。長寿あんしん相談センターとは運営推進会議等で情報交換や連携、研修会等にて協力を図っている。</p>	<p>市担当者とは書類上のことや更新時に、その都度窓口に出向き報告を行い、情報を得ている。電話での相談等、協力関係にある。市主催の研修にウェブ会議で参加している。介護相談員の訪問は今年度は自粛である。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人は開設当初から身体拘束をしないケアを実践している。法人全体で定期的に勉強会を実施し、事業所でも年間研修計画にて定期的に研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人全体の勉強会はコロナ感染防止の為、自粛しているが、事業所内で年3回、マニュアルや資料等を基に勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関の施錠はせず、1階受付け職員と連携し見守り支援している。外出希望者には職員と一緒に中庭を散歩している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関するマニュアル、年間研修計画にて定期的に研修を行っている。又、日常の声掛けやケアでも職員間でお互いに注意し、虐待防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関するマニュアル、定期的な研修会を実施し、施設外研修に参加した職員は伝達研修会で職員へ伝えている。成年後見人を利用されているお客様がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前にご本人も含め見学いただき、契約の際は管理者が内容を十分説明し、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	お客様、ご家族の意見や要望は面会時や運営推進会議、家族会等で確認し、その都度対応している。年1回法人すべての事業所が参集し、第三者委員を交えて委員会を開催し、意見や要望等は職員へも伝えている。入口にご意見箱を設置している。	利用者からは日々の関わりの中で時間を見て傾聴し思いを聞いている。家族からは電話で状況報告したり、ガラス越しの面会で意見や要望を聞いている。年1回、第三者委員の参加を得てウェブ会議を開催している。転倒事故対策として安全な環境作りを心がけ、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議（リモート会議）を毎月理事長も参加し実施、運営や行事、サービス内容等を報告、協議している。ケア会議やカンファレンスでは職員の意見が出やすいように配慮し、年2回の人事考課の面談でも聞き取りしている。	日々のカンファレンスやケア会議で意見や提案を聞き、申し送りノートを活用して職員全員で情報を共有している。管理者は年2回の人事考課の面談で個々人の相談も聞いている。記録の仕方について二重記録を廃止する改善ができた事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人は年2回の人事考課制度を導入し、職場環境の整備に取り組んでいる。管理者が個別面談にて個人目標や意見を聞く機会を設け、人材育成やスキルアップに繋がるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人は法人内研修に今の時代にふさわしい講師を招いて職員全員で受ける機会を設けている。また、外部研修へ参加できる体制や資格取得できるような支援も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の同業者との交流や職員も積極的に外部研修へ参加できる機会を設け、ネットワーク作りやサービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前には必ずご本人・ご家族と面談し、身体状況や環境、生活歴等伺いながら本人の安心を確保し、不安や寂しさを感じないような関わりに心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様にご家族の思いや不安、要望等を確認し、安心して利用ができるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が何で困っているのか、何が不安なのかを見極め、必要なサービスも含めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でお客様のできる事や役割を見つけ、自立支援を促すケアに取り組んでいる。ゆっくりとした時間を一緒に過ごし、尊厳を大切にしながら関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にお客様を支えるように随時連絡や相談を行っている。新型コロナウイルス感染症対策にて行事へのご家族の参加ができないため、写真等をお送りし、生活の様子をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様一人ひとりの想いや生活歴、馴染みの関係を尊重し、実現できるような支援に努めている。新型コロナウイルス感染症にてご家族と面会が難しいため、ガラス越しやアバターにて面会や関わりが途切れないように支援している。	コロナ感染防止の為、家族とはガラス越し面会やパソコン画面でアバターロボットの遠隔操作を行い、面会できている。電話で声を聞く等、関わりが途切れないよう支援している。個別対応で行きたい場所にドライブ支援や希望に応じて行きつけの美容室訪問等を行い、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やレクリエーションの場所等お客様の状態や性格など配慮しながら支援している。日々の暮らしの中で状態が安定し、お客様が共に支え合う環境になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居にて契約が終了しても入院先に出向いたり、電話などで近況の確認を行いご本人・ご家族が不安にならないように相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただくために、ご本人からの意向や希望を伺い、可能な限りご本人の思いに沿った支援に努めている。思いを伝えられない方はご家族に確認したり、表情などから察するようにしている。	お茶の時間や入浴時、ソファに座ってゆっくりしている時等に思いや意向の把握に努めている。利用者から話しかけられる場合もある。困難な場合は表情や仕草などの特徴的サインを把握し、家族の意見や生活歴から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前にご本人やご家族、担当されていた関係機関からの情報や生活環境等の情報収集し、職員間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしや心身状態等を個別記録に残し、職員間で連携を図り情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向や課題を考慮しながら介護計画書を作成し、担当者会議を開催している。また、定期的なモニタリングやケア会議にてお客様の状態を職員全員で理解し、定期的、状態に応じて介護計画書の見直しを行っている。	本人や家族の意向や課題、主治医や職員の意見をもとに担当者会議で方向性を決め、趣味を取り入れる等、利用者の状態に応じた介護計画を作成している。毎月のモニタリングや1年毎に見直しをしている。状態変化時は、その都度介護計画の見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の状態や言動、経過等記録している。また、食事や水分、排泄等も記録し職員間で情報を共有しながら必要に応じて介護計画の見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画以外でも多様なニーズや意向に応じて必要な時に必要なサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や事業所の外出行事等できるだけ地域の中へ出かけるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望や今までの主治医との関係が継続できるよう支援している。家族が受診介助できない時や緊急時は職員で支援している。往診を希望されるご家族も多く、主治医との情報共有、連携を図っている。	入居前のかかりつけ医を大切に、定期受診を家族と協力支援している。協力医療機関から月2回の訪問診療と歯科の訪問診療があり、口腔ケアも大切にしている。職員看護師が主治医と連携を取り、緊急時は主治医の指示で職員が同伴受診や救急搬送する等、適切な医療を行っている。訪問看護の活用で24時間医療連携体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤の看護師がおり、介護職員との情報交換や医療機関との連携が図れている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後は管理者が定期的に訪問や状態確認し、主治医との連携で早期に退院できるように支援している。日頃よりかかりつけ医療機関との連携を図るよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期、緊急時の対応等については日頃よりご家族と話し合い、主治医の助言をいただきながらご家族が不安にならないように支援している。看取りを希望される場合は指針の説明を再度行い、同意を得たうえで医療と連携し取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化や終末期、緊急時の対応や看取りについて説明し、資料を渡して同意書も貰っている。主治医の助言のもと、家族との信頼関係を共有しながら支援している。看取り介護について家族の意思確認をし、家族の希望で訪問看護等、医療との連携で、看取り介護の実績がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故対応マニュアルもあり、定期的に勉強会も実施している。特養や小規模多機能も併設しており、緊急時はお互いに連携がとれるようになっている。定期的に消防署の指導でAED、心肺蘇生訓練を実施している。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルもあり、建物全体で年2回以上、日中、夜間想定火災避難訓練等を実施している。八幡校区コミュニティ防災連絡会に加入し地域との協力体制も築いている。</p>	<p>建物全体が耐震構造となっており、年2回建物全体の施設で通報・避難誘導・消火訓練等を実施している。水害想定での訓練も計画している。校区コミュニティ防災連絡会に加入し、災害時の住民の施設受け入れの協力体制を築いている。備蓄は、水・白粥・味噌汁・ビーフカレー・五目ご飯等を施設全体の3日分を用意している。カセットコンロや電池等もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人の理念に深く関わっており、法人がもっとも大切にしている部分でもある。マニュアルや基準書を利用し、ケア会議で定期的に研修し、定期的に外部講師による法人全体の研修会も実施している。</p>	<p>法人全体で外来講師による人権擁護などの研修会を行っている。事業所でもケア会議で年2回、マニュアルや基準書を基に研修し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応に努めている。入室時はノックや声かけを行い、トイレ使用時はタオルをかけて羞恥心に配慮している。呼称は苗字で呼び、衣類等も選択できるような声かけをしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の暮らしの中で同じ目線でゆっくり傾聴し、会話を楽しめる環境に努めている。自分の思いや希望をうまく表出できない方は表情や仕草からくみ取り自己決定の支援に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にし、ゆっくり待つことを基本にその人らしく暮らせるように支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>季節に応じた身だしなみやおしゃれが楽しめるよう配慮し、行事や外出時はふさわしい衣類や化粧等支援している。希望でカットやパーマ、カラーなどの利用も行える。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の状態や嗜好に応じた食事の提供、食前の嚥下体操等楽しみながら食事ができるように配慮している。食事の準備や片づけ等も手伝っていただき、季節を感じる献立や行事食にも努めている。	併設施設の栄養士が献立作成し一括厨房で調理し、事業所ではご飯と味噌汁を作っている。嚥下機能に応じた食形態と必要時ソフト食や希望のものを代用食で提供している。下膳などの後片付けを一緒にしている。刺身食やひな祭り・母の日・クリスマス等の行事食、誕生日はお茶とケーキで祝う等、食事が楽しみなものになるよう支援している。食前の嚥下体操等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した食事の提供、毎日の食事、水分摂取量は記録に残し情報共有している。水分や食事が少ない方は主治医や家族へ報告し、その都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の身体状況に応じて口腔ケアへの声掛けや介助にて毎食後実施している。介助の必要な方は歯科衛生士の指導を受け、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	プライバシーに配慮しながらトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用し、排泄パターンに応じた排泄ケアに努めている。また、各居室にトイレがあり安心してトイレでの排泄ができる環境となっている。	排泄チェック表で個別の排泄パターンに応じて、自室のトイレで、羞恥心に配慮し、ドアを閉めて排泄支援をしている。夜間は声かけしパット交換している。便秘症の利用者が、下剤を使用しないで自然排便ができるように改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の日課に体操、歩行訓練や天気のいい日は屋外へ散歩など運動を取り入れ、薬を使わずに運動、食事、水分で便秘予防に取り組んでいる。水分は1日1500mlを目標にその方に応じた飲み物を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴できる体制になっており、本人の希望される時間帯に個浴でゆっくり入浴を楽しまれている。また、着脱や洗身等自立支援の介護に努め、入浴前後の水分補給や皮膚状態の観察も行っている。	基本的に週3回、午前・午後で入浴支援をしている。シャワー浴・足浴・清拭支援、同性介助を行っている。希望で毎日入浴もできる体制である。拒否がある場合は、職員を交代したり、声掛けの工夫や時間をずらす等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や体調に応じて休息や午睡ができる環境を設定している。午睡で生活リズムが崩れないよう日中の活動プログラムにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別台帳にいつでも見れるように準備し、確認・理解ができている。服薬時は誤薬や飲み忘れがないように介助や手渡し、服薬状況を記録に記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご本人の趣味や生活歴から役割や楽しみ、できる事を共に模索しながら支援している。屋外の散歩や買い物、ドライブ等で気分転換も図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>現在はコロナ感染症対策にて屋外への外出は控えているが、毎日の散歩や外気浴、ドライブは状況を見ながら実施している。以前はできるだけ屋外へ出かける機会を多く持つようにし、年間行事や地域の行事へご家族や地域の方々の支援を得ながら出かけるようにしていた。</p>	<p>コロナ感染防止の為、外出を自粛している。近隣や庭園の散歩、一階フロアでの歩行練習、広々とした屋上でお茶を飲んでの外気浴を楽しんでいる。短い時間でのドライブにも出かけ、外気浴のできる工夫をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、自己管理できる方は自由に使えるような支援を行っている。自己管理が難しい方は家族の理解を得ながら買い物等できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人の状態を確認しながら、電話の取り次ぎや希望時は電話をかける等の支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花や装飾を飾ることで季節感や家庭的な雰囲気を感じるような工夫をしている。居室は室温や湿度に注意し、馴染みの物を使っただき、居心地のいい空間づくり、プライバシーに配慮している。</p>	<p>フロアには空気清浄機を2台設置し換気・温度・湿度を調整し、利用者が快適に過ごせるよう環境を整えている。寛げるようにソファやテレビを配置し、ジグソーパズルや本も置いている。季節の桜の花や雛人形も飾り、作品のぬり絵等も掲示している。廊下は車椅子移動も自由にできる広さで、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルや椅子、ソファの配置を工夫し、お客様同士が楽しく語らえる空間や一人で過ごせる居室や空間を整えている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>基本的には家具等は事業所で準備してあるが、持ち込みも自由でご家族の協力で大切な物や思い出の品などを飾り、自宅の環境に近い状態で安心して過ごせるように工夫している。</p>	<p>各居室には電動ベッド・鏡付き洗面台・エアコン・ダンス・トイレが設置してあり、温湿度計もある。寝具はリースである。毛布類は持ち込みで、加湿器もある。テレビやソファ・家族写真・自分の作った作品を飾ったりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーになっており、廊下幅も広く車椅子や歩行器での移動も可能である。すべて個室で電動ベッドにてお客様が動きやすい環境設定となっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない